



## だれも特区（得）をしない、 特区構想に全力注意せよ

中央区東支部 橋本英樹

1848年にマルクスは「一匹の妖怪がヨーロッパを徘徊している。共産主義という妖怪が…」と述べた。

時は今、21世紀。「世界を妖怪が徘徊している。新自由主義という妖怪が」というのが、今の状況である。

新自由主義とは、簡単に言うと、世の中にある「規制」というものをなるべく撤廃し、すべてを市場にゆだねると、世の中うまくいく、という考え方である。

20世紀に共産主義が世界で勢力を伸ばしていた頃、それに対抗する思想として誕生した。

時代をたどると、イギリスのサッチャリズムがその皮切りである。当時のイギリスは、経済がぬるま湯につかった様になり、だらけきってしまっていた。「イギリス病」とも揶揄されていた。それにサッチャー首相は、競争原理に基づいたやり方を導入し、国民に喝を入れた。他国のことながら、このやり方に拍手喝采した日本国民も多かったであろう。

さらに、我が国では、小泉改革である。小泉は厚生大臣のころから郵政民営化を唱えていた。初めは変わった事を言う人だな、と思われていたが、次第に国民の心を掴み、2003年の郵政民営化の是非を問う解散総選挙を行い、それに大勝利したのは記憶に新しい所であろう。今思うと、この「郵政民営化」というのも、それなりに説得力を持つ考えた方である様に思えたものである。私個人もすばらしい考え方だ、と

思った。しかし、これも今考えると新自由主義の流れであった。

規制撤廃を唱える新自由主義というものを、この場で、皆様によく考えて頂こうと思いこの原稿を書いている。

まず、彼らの言う所の撤廃すべき「規制」という言葉について考えてみよう。

ちょっと角度を変えると、「規制」とは、文字通り「規則」のことである。

世の中にはいろいろな「規則」がある。

医療の世界では、医療行為は日本国の医師免許を持つ医師だけに許された行為である。

また、国民健康保険と自費診療の併用を認めないという混合診療の禁止。

目を農業に転じると、農地の売買、農業を始める上での手続き上の規則がある。漁業だって、勝手に漁民以外の人が魚を捕ってはいけない、などの規則・規制がある。なんでも自由にして良い、となったら、釣り人が娯楽半分で魚を捕ってしまい、漁業が成り立たなくなるだろうし、あと、漁獲高を調整して漁業資源を守るという意味もある。

日本は外国人労働者の受け入れを認めていない。このようなことを認めたら、日本人で仕事を得られない人が増加するだろうし、賃金も減少する。外国人犯罪も増加するだろう。何せ、日本人は世界一秩序を重んじる国民であるから

我が国の犯罪率も世界一少ないのである。日本は世界一安全な国と言われているが、このことで我々はかなりの恩恵を享受している。日本人よりモラルが低く遵法精神の低い人間が多く流入すれば、治安が悪化するのとは当然ではないか。それを守るために、外国人労働者の受け入れを認めていない。これも規制であり規則である。

関税、というものがある。これも国内産業を守るためのものである。どこの国でもやっている。国内産業が崩壊したら、自国に失業者があふれ、国が混乱してしまうのではないか。しかし、関税で国内産業を保護しすぎると、だらけてしまい競争力を失ってしまう。その匙加減を機動的にタイムリーに行うことは一国の経済政策として重要である。

あと、余談だが、サッカーではゴールキーパー以外、手を使ってはいけない、とか、バスケットでは3歩以上、ボールを持って歩いてはいけない、など色々な規則がある。

彼らはこれらを原則撤廃せよ、と宣っている。しかし、規制と言っても、これらは、規則なのである。世の中で必要であるから、作られて来たものである。不可解なもの、無駄なもの、も少しはあるかもしれない。それは少しずつ手直しして行くのが通常であろう。

しかし、彼らは一気にやろうと言う。それがTPPである。国内で議論してはいつまでも埒が明かないから、憲法よりも上とされる国際条約で一気に規制撤廃、規則撤廃をやろうとしているのである。これがTPPの正体である。

しかし、TPPを強引に推し進める新自由主義者たちも、はたと気が付いた。TPPをやろうとしてもTPPの条項に沿って国内法を変えて行かなければならない。これを民主主義の手續きを踏んで行うのは困難である。

されば、国民を欺くしかない。彼らは最近「特区」という言葉を持ち出した。国内の極々狭い部分で、ちょっとやってみようではないか、ということである。

特区に関する政府のペーパーを読むと、医療に関しては、外国人医師、看護師の審査、試験なしでの受け入れ、混合診療の解禁、病院の病床規制の撤廃、医学部の新設など、結構、香ばしいものが並んでいる。

ちょっと考えればすぐに疑問が湧いてくる事だが、医師免許や看護師免許を外国人に簡単に与えてよい訳はない。我々医師が、他国で医療をしようと思ったら、やはり、その国の定める規則に従い、試験、審査を受けなければならない。それなしで、医療行為が出来る場所など、難民キャンプなどを除けば殆どない。つまり、外国人医師を試験、審査なしで受け入れている国などどこにもないのである。医療のレベル、医師のレベルを担保できないではないか。

また、混合診療に関しては、今までもかなり議論がなされ、且つ、以前、裁判で否定されている。このようなことを、「特区」と称して、どさくさで解禁してよい訳がない。

また、「特区」というと、我々は江戸時代の長崎の出島の様な極々狭い場所をイメージしがちだ。まあ、それが彼らの狙いでもあるのだが、恐るべき事に、彼らの言う「特区」とは、東京、愛知県、関西圏のことだそうだ。経済圏としては日本の大部分と言ってもよい。そして、特区で行った事は、速やかに全国に広げる方針だそうだ。

しかも、安倍首相は、特区法案を作成にあたり、面倒な事を言いそうな、厚生大臣、農林水産大臣をはずして議論してこれを作成した。まあ、特区に賛成しそうな大臣や、あと、これを推し進めたい民間人を民間議員として仲間に入れ（ほとんどが新自由主義的な考えを持った

人)、特区法案を練っている。

これもすべてTPPのためである。TPPがどんなものなのかは、秘密裏に交渉が進められているので、殆ど表には出て来ない。国民に隠れてこそこそ重要な取り決めを行っているのである。よほど、後ろめたいことなのだろう。まあ、漏れて来る話しを聞いても、なるほど、新自由主義者たちにとっては利権を漁れて喜ばしいものであるが、一般の国民にとって良い事など一つもないと断言できるものだ。

TPPの内容がどんなに醜いものでも、どさくさに紛れ特区法案で準備をしておき、特区を全国に広げておき、TPPが締結された時に、「ほらっ、法律的にはきちんと整備されているでしょう」と言うつもりなのである。

TPP、特区で混合診療が解禁されれば保険会社は大儲けが出来る。一方、国民はそのような保険を買わないと、満足な医療が受けられなくなるので、経済的に大変になる。

世界には病院のチェーン店網を大々的に展開しているグループがある。これを「病院屋」と称すると、病院屋は日本に病院を建てて儲けたいと考えている。

しかし、日本の現状では、病院を建てても、医師の確保が困難である。それならば、外国人医師を採用すれば良いではないか、という分かりやすい発想なのである。自分の儲けのためにはなりふり構わず、というのが新自由主義者の特徴である。

先日、楽天の三木谷氏が、医薬品のネット販売解禁で安倍首相に嘯み付いて強引にネット販売解禁の方向に持って行った（現在、審議中）。医薬品でも、危険性の高いものは、薬局等で薬剤師の手により患者の様子を診ながら販売されなくてはならないというのは、世の中の常識であろう。

また、日本全国津々浦々に、それで生活している薬局は多数ある。三木谷氏にとってみれば、そのようなことはどうでも良い事なのだろう。自分のもつ、「楽天」というネット販売で売れば儲かる、という頭しかない。生活している薬局も、薬を買う患者の健康管理など、彼にとってはどうでも良い事なのであろう。なるほど、こう見ると彼の行動は新自由主義者の行動と軌を一にしていると言えよう。

実際、彼は、改革、開放、特区、TPPを押し進める首相直属の産業競争力会議の民間議員のメンバーの一人でもある。

結論である。

特区というのはTPPの準備であり、TPPそのものである。TPPでも特区でも、トック（得）をする日本人など誰もいない。ただただ、新自由主義者が、日本人を食物にして自分達だけがお金を儲けることを企図して行うものである。

故にそのやり方は、民主主義のやり方から大きく逸脱し、秘密裏に、そして、時に「特区」という甘い言葉で包みだまし討ち、というやり方で押し進めようとしているだけである。

しかし、彼らにとって不幸な事は、日本は民主主義国家であるということ。民主主義のルールに則って、政治を出来ない者は、政治から退場していただく他ないし、実際に歴史を見るとそのようになっている。

新自由主義者たちにそそのかさされ、TPPや特区構想を強引に押し進めようとする政治家もいるが、政府や議員の中には、民主主義のルールを理解している者も大勢いる。

我々に今出来ることは、彼らを応援すること、おかしなことをやったら、たちまち天罰を喰らわせるぞ、という気概を我々が持つこと、そして、最も大事なことは、このようなことが行われているということを我々が知ることである。（伏見啓明整形外科札幌骨粗鬆症クリニック）